

クラシック・流行歌からCM・ゲーム・劇伴まで

# 日本の作曲家

## —近現代音楽人名事典



9784816921193

細川 周平・片山 杜秀 監修

A5・960頁 定価14,800円(本体14,095円) ISBN978-4-8169-2119-3 2008年6月刊行



### 細川 周平、片山 杜秀 二人の専門家が選んだ 1,247 人

- ・日本の音楽史上、顕著な業績を残した作曲家・編曲家 1,247 人を収録した最大規模の人名事典です。
- ・クラシック、歌謡曲、演歌、ロック、ジャズ、吹奏楽、映画・テレビ・舞台等の劇伴、CM 音楽、ゲーム音楽、童謡、邦楽、校歌、寮歌、サウンド・アート、シンセサイザー・プログラムなど、幅広いジャンルの人物を収録しています。

### 活躍中の人物にはアンケートを実施

- ・詳細なプロフィール、伝記・評伝の文献情報に加え、活躍中の人物には“音楽を始めた動機”“好きなレコード”“次に構想している作品”“代表作”などのアンケート回答を掲載。人柄、人生がわかります。
- ・「人名索引」、「グループ名索引」、「事項名索引」付き。

#### 監修者プロフィール

**細川 周平** ほそかわ・しゅうへい 1955年生。国際日本文化研究センター教授。専門は近代日本音楽史、日系ブラジル文化。著作に「レコードの美学」「サンバの国に演歌は流れる」など。

**片山 杜秀** かたやま・もりひで 1963年生。慶應義塾大学准教授。専門は近代日本の思想史・文化史。著作に「音盤考現学」、共著「日本戦後音楽史」など。

#### 収録人物例

- 芥川也寸志(1925~1989) 「弦楽のためのトリプティック」
- 伊藤正康(1922~) 「ああモンテンパの夜は更けて」
- 伊福部昭(1914~2006) 「シンフォニア・タブカーラ」、映画「ゴジラ」
- 上野耕路(1960~) ゲルニカ、CM「たらこ・たらこ・たらこ」
- 植松伸夫(1959~) ゲーム「ファイナル・ファンタジー」
- 宇野誠一郎(1927~) 人形劇「ひょっこりひょうたん島」
- 大澤壽人(1907~1953) 「交響曲第2番」「ピアノ協奏曲第3番」
- 大中恩(1924~) 「サッチャン」「いぬのおまわりさん」
- 大野松雄(1930~) 音響デザイナー、アニメ「鉄腕アトム」
- 金井喜久子(1911~1986) 「琉球の思い出」「琉球狂詩曲」
- 杵屋正邦(1914~1996) 邦楽界初の作曲専門家
- 古賀政男(1904~1978) 「丘を越えて」「影を慕いて」
- 齋藤高順(1924~2004) 映画「東京物語」、吹奏楽「ブルー・インパルス」
- 佐久間正英(1952~) BOØWY、GLAYなどをプロデュース
- J・A・シーザー(1948~) 映画・舞台「田園に死す」(天井棧敷)
- 渋谷毅(1939~) NHK「おかあさんといっしょ」、CM「テクニクス」
- 武満徹(1930~1996) 「ノヴェンバー・ステップス」「うた」
- 筒美京平(1940~) 「また逢う日まで」「木綿のハンカチーフ」
- 刀根康尚(1935~) サウンドアーティスト、作曲家
- 西梧郎(1906~1992) 映画「江戸最後の日」「丹下左膳余話・百萬両の壺」
- 西村朗(1953~) 「光の雅歌」「幻影とマントラ」
- 黛敏郎(1929~1997) 「涅槃交響曲」、オペラ「金閣寺」
- 三木たかし(1945~) 「津軽海峡・冬景色」「めだかの兄弟」
- 三木鶏郎(1914~1994) ラジオ「冗談音楽」、CM「明るいナショナル」
- 宮城道雄(1894~1956) 「春の海」「越天楽変奏曲」
- 三善晃(1933~) 「響紋」「管弦楽のためのく(四部作)」
- 八木正生(1932~1991) CM「ネスカフェ・ゴールドブレンド」
- 山下毅雄(1930~2005) ドラマ「大岡越前」、クイズ「アタック25」
- 吉田正(1921~1998) 「有楽町で逢いましょう」「いつでも夢を」
- 吉田信(1904~1988) 「タンゴを踊ろうよ」「南から南から」「乙女の花」
- 若草恵(1949~) 編曲「ラブ・イズ・オーバー」「難破船」

…など1,247人

2008.6

●お問い合わせは… **日外アソシエーツ** 営業本部 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

■貴店名	注文書	日本の作曲家—近現代音楽人名事典 定価14,800円(本体14,095円) ISBN978-4-8169-2119-3	冊
		■お名前	

松村 禎三 まつむら・ていぞう  
作曲家  
東京芸術大学名誉教授

【生】1929年(昭和4年)1月15日  
【没】2007年(平成19年)8月6日  
【出生地】京都府京都市【師】池内友次郎,伊福部昭  
【学歴】第三高等学校理科(1949年)卒【団体】日本現代音楽協会,日本作曲家協議会,日ロ音楽家協会,日中文化交流協会【受賞】音楽コンクール作曲管弦楽部門第1位(第24回)(1955年)「序奏と協奏曲的アレグロ」,尾高賞(第17回・27回)(1969年・1979年)「管弦楽のための前奏曲」[ピアノ協奏曲第2番],毎日映画コンクール音楽賞(1970年・1972年)「地の群れ」[忍ぶ川],芸術祭優秀賞(第28回・34回)(1973年・1979年)「ピアノ協奏曲」[篠笛と琵琶のための詩曲],福山賞(1974年),サントリー音楽賞(第10回)(1978年),紫綬褒章(1990年),藤堂頭一郎音楽褒賞(第10回)(1990年),京都府文化賞(功労賞,第10回)(1992年),毎日芸術賞(第35回)(1993年)「沈黙」,都民文化栄誉章(第10回)(1994年),モービル音楽賞(第24回)(1994年),京都音楽賞(大賞,第9回)(1994年),勲四等旭日小綬章(2000年)  
▶【専門】管弦楽曲,室内楽,オペラ,映画演劇の付帯音楽【代表作】「管弦楽のための前奏曲」(1968年),「ピアノ協奏曲1番」(1973年),「ピアノ協奏曲2番」(1978年),「チェロ協奏曲」(1984年),「交響曲1番」(1965年),「交響曲2番」(1998年),オペラ「沈黙」(1993年)【趣味】(以上,2007年回答)

いくつかの習作ののち1955年に管弦楽曲「序奏と協奏曲のアレグロ」を書いて毎日音楽コンクール作曲部門に出品した。同作はストラヴィンスキーやラヴェルへの傾倒を見せ、審査員の伊福部から“あくまでも自己の語法をもって語ろうとした真摯な能力”が高く評価され、同コンクール第1位に選ばれた。1956年から伊福部に師事。1957年原始的な荒々しさを持つ「ソプラノと室内オーケストラのための〈阿知女〉」で注目される。以後、安易に前衛的な書法を使わず、自身の作風を変えず、自らが“アジア的”と呼ぶ発想とモチーフが様々に応唱され重なりあう手法ですぐれた作品を発表し続け、1965年生命の根源に直結したエネルギーをもった3楽章から成る「交響曲」で作曲家としての評価を決定付けた。さらに1969年「管弦楽のための前奏曲」で尾高賞を獲得したのはをはじめ、1974年「ピアノ協奏曲1番」で芸術祭優秀賞及び福山賞を、1979年「ピアノ協奏曲2番」で2度目の尾高賞を受賞。映画音楽の分野でも活躍し、「地の群れ」「忍ぶ川」「千利休・本覺坊遺文」「ひかりごけ」「深い河」「海は見ていた」といった熊井啓監督作品を多く手がけ、1970年の「地の群れ」と1972年の「忍ぶ川」では毎日映画コンクール音楽賞を受けた。小説家・水上勉らとも交流し、水上の原作による「狩野芳崖」「越後つづし

生家は京都の呉服店。10歳の頃に生に音楽の手ほどきを受け、旧制三高在学中には高学舎の長広敏雄に和声クラス担任であったドイツの影響も大いに受けた。1947年作曲家を目指して上京し、池内友次郎に師事。1950年に東京芸術大学を受験し、重度の結核が判明したため入学生間を病床で過ごす。この間にあり自身も俳人であった秋元不死男主宰の「水」の手術を経て、病勢が徐々に回復。伊福部昭の著書「管絃楽法」に友人の池野成の励ましや助力を得

人物名  
職業・肩書

生没年  
学歴、受賞  
など

アンケート回答も記載

【アンケート項目】

- 専門 ● 興味
- 音楽を始めた動機
- プロを志したきっかけ
- 初めて買ったレコード
- 好きなレコード
- 印象に残るコンサート
- 生涯の一曲とその理由
- 印象に残る人物とその理由
- 次に構想している作品
- 代表作 ● 趣味・特技

詳しい経歴  
を記載

中村 八大 なかむら・はちだい  
作曲家,ジャズ・ピアニスト

【生】1931年(昭和6年)1月20日  
【没】1992年(平成4年)6月10日  
【グループ名】渡辺晋とシックス・ジョーズ,ビッグ・フォア【出生地】中国・青島【家族】兄=中村二大(クラリネット奏者),義弟=寺田ヒロオ(漫画家)【学歴】早稲田高等学院(1950年)卒,早稲田大学文学部(1955年)中退【受賞】日本レコード大賞(第1回・5回)(1959年・1963年)「黒い花びら」[「こんにちは赤ちゃん」,日本レコード大賞(作曲賞,第4回)(1952年)],リオ・デ・ジャネイロ国際ポピュラー音楽祭最優秀オーケストラ編曲賞(第1回)(1969年),JASRAC賞(外国部門,第1回・4回・5回)(1982年・1986年・1987年)「上を向いて歩こう」,古関裕而記念音楽祭金賞(第1回)(1991年)「ぼく達はこの星で出会った」,日本レコード大賞(日本作曲家協会特別功労賞,第34回)(1992年),勲四等旭日小綬章(1992年)

父が小学校の校長を務めていた中国・青島で生まれる。小学2年の時にラジオから流れてきた曲に感激、メロディーを覚えてその足でレコード店に向かうと、その曲はドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より・第4楽章」とわかり、初めて自分の意志でレコードを買った。小学3年よりピアノを習い、3ヶ月でバイエルを修了。小学4年からは東京の親戚宅に預けられて内地留学し、早稲田国民学校と東京音楽学校附属児童学園に通い、高田信一にピアノと作曲を師事。学校の同級生には大神楽の曲芸師・海老一染太郎がいた。この頃、叔母の貯金箱からお金を抜き出し、児童学園に行くのをさぼって宝塚歌劇をはじめ東京の劇場巡りをするようになったが、たちまち叔母にばれて叱られた。1943年(昭和18年)の夏、青島に戻り、ユダヤ系ドイツ人の音楽教師ダ・カール・ヘルスに師事、大きな影響を受けた。1944年祖母の住む久留米市に引き揚げ、中学明善校2年の1945年、祖母宅で玉音放送を聴いた。この頃、炭鉱慰問にやってきた利根一郎の楽団にアルバイトで参加し、兄の二大と共に流行歌を演奏。1949年上京して早稲田高等学院に編入、高校生ながらジャズ・バンドに客演。1950年早稲田大学文学部に進学すると、同大の先輩で、後年渡辺プロダクションを設立するベーシスト・渡辺晋に誘われ、そのバンドに加わり、大活躍することになった。プロデューサーとして

ズで吹き込んだ「ブローケン・ハーテッド・ビジョン」が作曲家としての処女作とされる。1953年バンド仲間だったテナーサクソ奏者の松本英彦と、ゲイ・セブテットに在籍していたジョージ川口、小野満の4人でジャズ・カルテットのビッグ・フォアを結成。爆発的な人気を博して戦後のジャズブームを牽引、メンバーの変更もありつつ、1957年まで活動を続けた。「スイングジャーナル」誌の人気投票では1953年から1959年までピアニスト部門1位を獲得。1958年にはギターの坪井功、ベースの永井啓二と中村八大モダン・トリオを結成。1959年日高繁明監督のロカビリー映画「青春を賭けろ」の音楽を担当し、この時に大学の後輩であった永六輔と初めてコンビを組んだ。徹夜でお互いに曲と詩を作りあい、両方が出来たところで合わせていくという方法の中から「黒い花びら」(歌・水原弘)などが生まれ、同曲はこの年制定された第1回の日本レコード大賞を受賞。以降、永が構成作家を務めたNHKのバラエティ番組「午後のおしゃべり」「夢であいましょう」(ディレクターは末盛彦彦)の音楽を手がけ、自身もモダン・トリオを率いて出演した。「夢であいましょう」では永の作詞で「今月のうた」として毎月1曲の新曲を書き下ろし、坂本九「上を向いて歩こう」、ジュリー藤尾「遠くへ行きたい」、デューク・エイセス「おきななじみ」、梓みちよ「こんにちは赤ちゃん」などの名曲を生み出した。中でも永六輔、中村八大のコンビに、坂本九を加えた“六・八・九”による「上を向いて歩こう」は「SUKIYAKI」のタイトルで英国・米国でオリジナル盤がリリースされ、米国でチャート1位、英国でも6位を獲得。世界数十ヶ国で発売され、内外を問わず数多くのアーティストに取り上げられる、世界で最も知られた日本のポピュラーソングとなった。「こんにちは赤ちゃん」は1963年、2回目となる日本レコード大賞に輝いている。1964年～1965年の1年間、ニューヨークで暮らす。1966年第1回リオ・デ・ジャネイロ国際ポピュラー音楽祭に江利チエミの歌による「私だけのあなた」を出品、江利は最優秀歌唱賞のベスト歌唱賞、自身は最優秀オーケストラ編曲賞を受賞。1967年、1970年の大阪万博のテーマ曲として「世界の国からこんにちは」を発表、三波春夫をはじめ、各社の競作で発売された。1970年初のクラシック作品「交響曲へ」を発表。また同年よりNHKの音楽番組「ス